

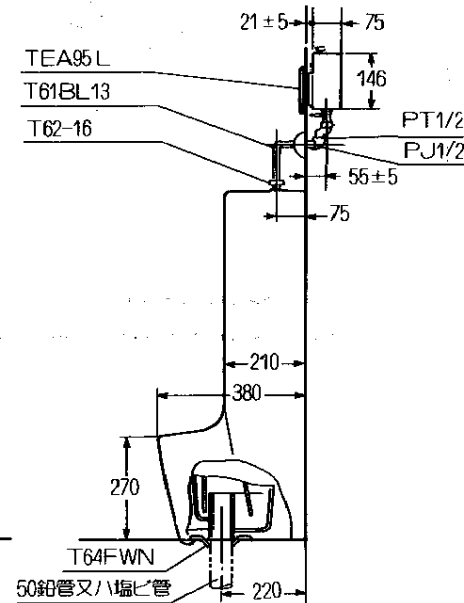
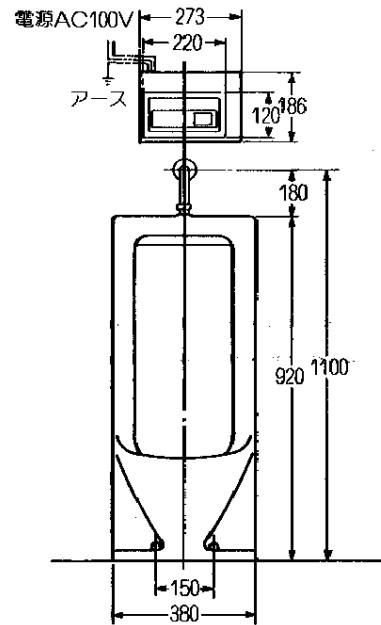
USシステムA型 感知フラッシュバルブ取付説明書

TEA95L(在来工法壁用) TEA96L(100×100タイル壁用)

製品の機能が十分発揮されるように、この取付説明書の内容にそって正しく取付けてください。

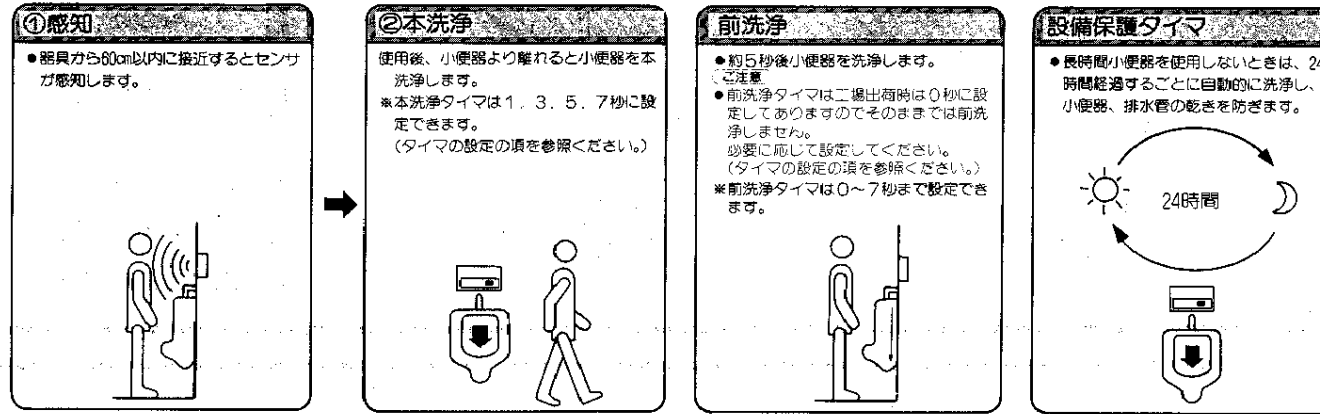
■標準取付図(U307C+TEA95Lの例)

注) 陶器の品番により取付寸法が異なります。
 詳細は工事用図面を参考の上取付けてください。



■作動のしくみ

このシステムは衛生的かつ経済的に作動するように設計されています。



■仕様

項目	TEA95L	TEA96L
外 寸	120(縦)×220(横)×5(奥行)	98(縦)×198(横)
電源電圧	AC100V 50/60Hz	
消費電力	常時4W・バルブ作動時10W以下	
感知距離	器具前面より60cm以内	
周囲温度範囲	0～40℃(水温は1～50℃)	
給水部接続	15A-ガスねじ	
感知時間	5秒間以上(5秒未満では作動しない)	
給水圧力	最低必要水圧0.7kgf/cm ² 最高水圧7.5kgf/cm ²	
吐水量	4ℓ～5ℓ/回に調節可能	

■梱包明細

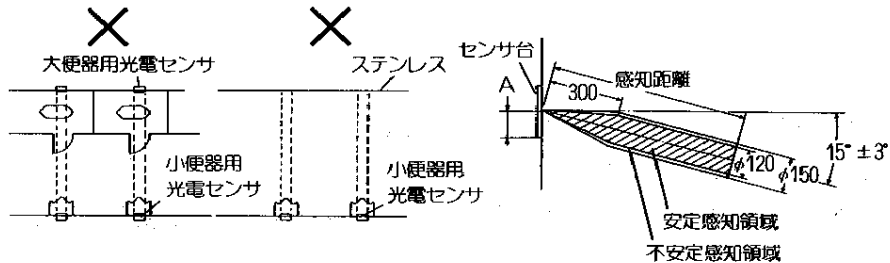
フラッシュバルブ部(電磁弁付).....	1個
光電センサ付カバー.....	1個
養生カバー付取付板.....	1個
脚(給水脚・吐水脚).....	2個
電線管コネクタ.....	1個
AYボルト・アジャスタボルト.....	4個・6個入
吸 盤.....	1個

■取付け前に

- 水道工事と電気工事は十分工程を打合わせの上、行ってください。
- 万一の際の危険防止のため、必ず過電流しゃ断器、漏電しゃ断器を設置してください。
- アース端子付きですので必ず第3種接地工事を行ってください。
- 電源線、アース線は、現場でご用意ください。
使用電線：2mm²又はφ1.6mm以上の600V絶縁電線又はケーブル。
- 給水圧力範囲は最低必要水圧0.7kgf/cm²、最高水圧7.5kgf/cm²です。この圧力範囲でご使用ください。
- 給水は上水道に接続してください。中水道および異物を多く含む水には使用できません。
- センサ面は傷つけないよう十分ご注意ください。
- 電気器具ですから、水をかけないように注意してください。
- センサの照射角度及び感知距離は次図のとおりです。なお、小便器の前に手すり等を設置する場合は、光电センサの感知領域内（安定感知領域内及び不安定感知領域内）に障害物が入らないように設置してください。また、光电センサ正面の壁がステンレス等反射しやすい場所への設置や、光电センサ同士（大便器自動洗浄システム用光电センサを含む）が対向するような設置は誤動作を生じますので避けてください。

照射角度と感知領域

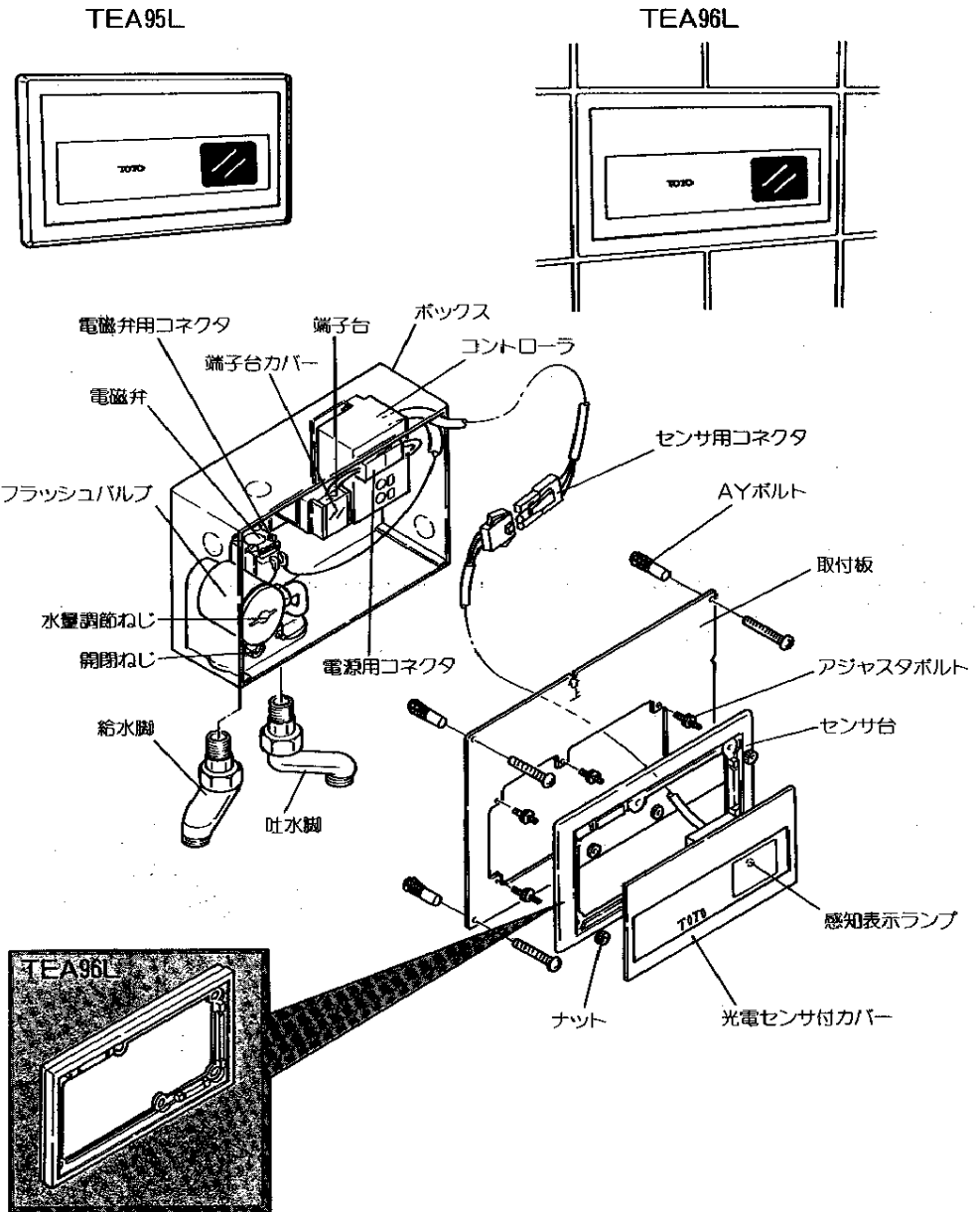
※白紙300mm×300mmの場合



品番	A寸法
TEA95L	50
TEA96L	40

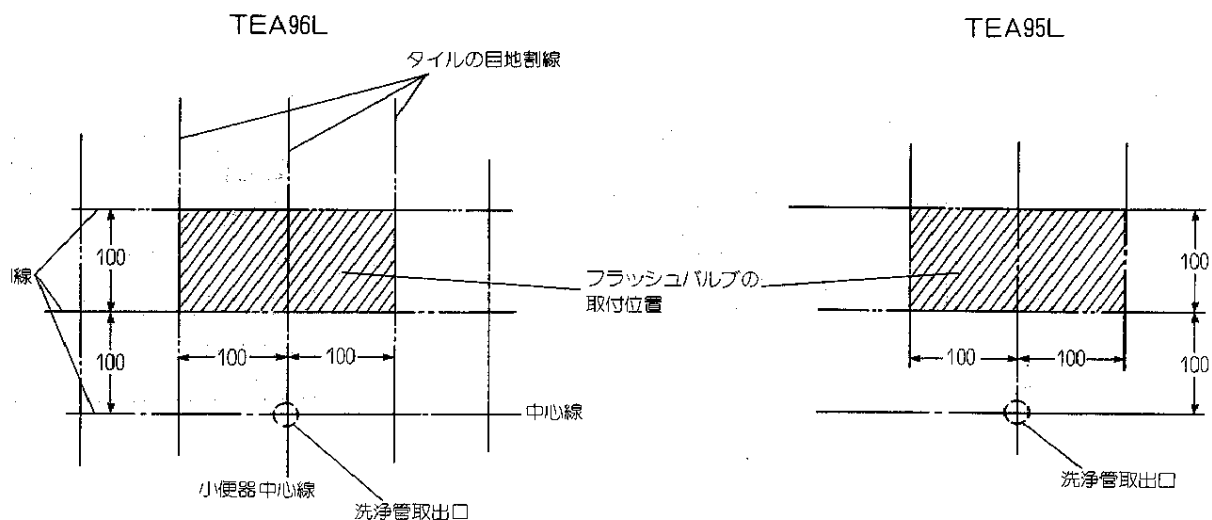
感知距離 800mm
(工場出荷時に設定)
照射角度 下向き15° ± 3°

■各部の名称



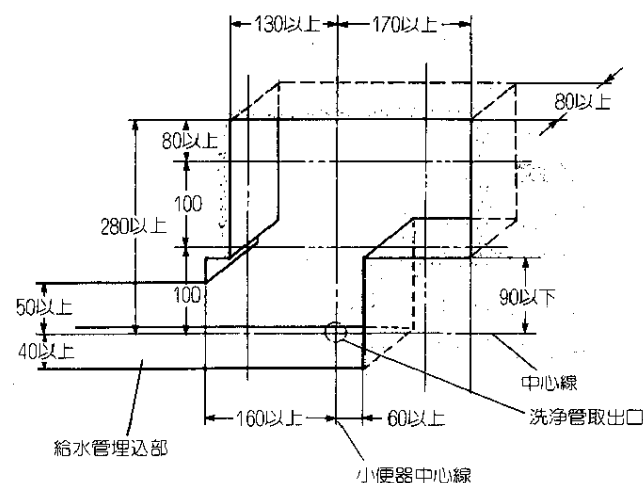
1 取付位置の墨出し

下地壁に、取付位置を示す中心線を墨出しします。



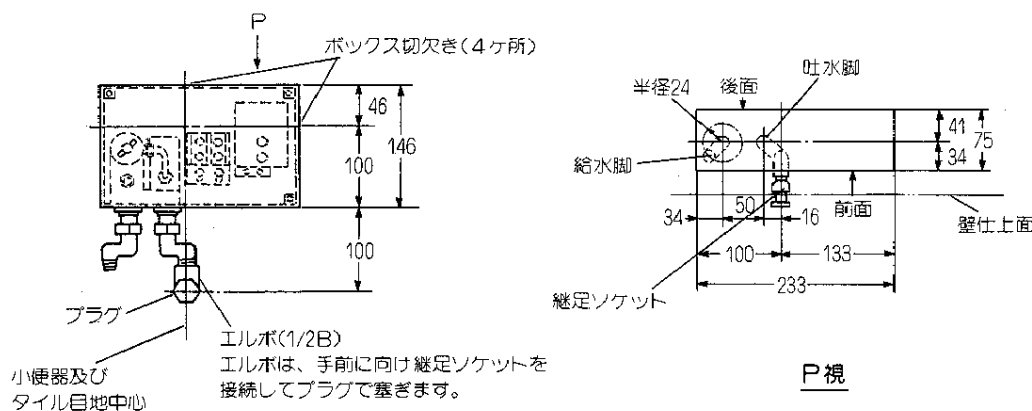
2 下地壁のはつり

図の寸法に下地壁をはつります。



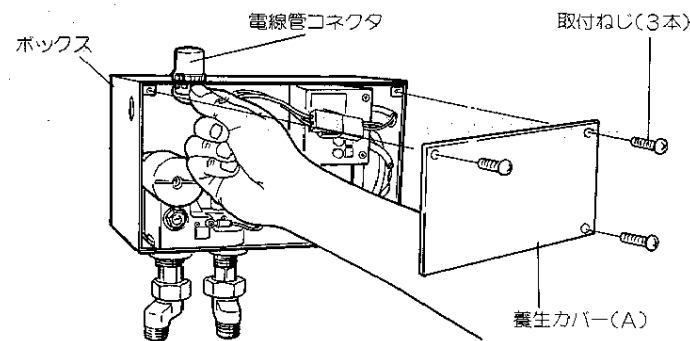
3 給水・吐水脚の取付け

フラッシュバルブに給水・吐水脚を仮固定します。また、吐水脚にエルボ(1/2B)をねじ込みます。このとき、脚の向きは給水側は下図のように任意の位置に、吐水側は下図のように、ボックス切欠き部に合わせてください。



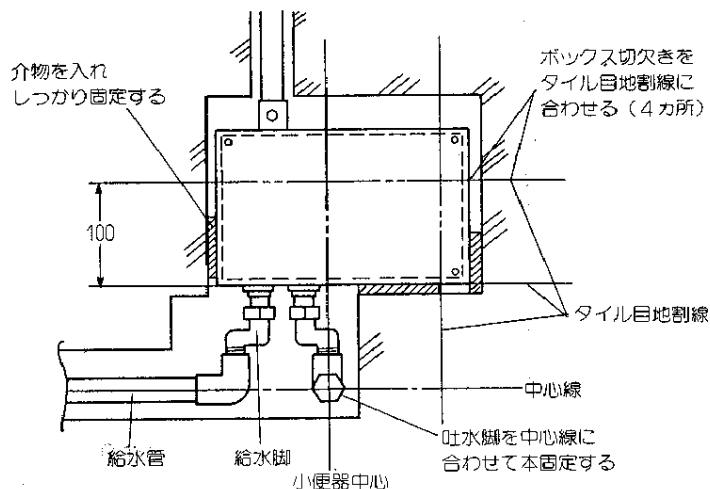
4 電線管コネクタの取付け

一旦、養生カバー(A)を外し、電線管コネクタをノックアウト部に取付けます。ノックアウト部はボックス上面に1カ所、左右側面に各1カ所ありますのでいずれかを抜いて電線管コネクタを接続してください。接続後、再び養生カバー(A)をボックスに取付けてください。



5 ボックスの位置合わせ及び給水管の接続

- ①はつた壁に器具を取め、位置合わせを行います。このとき、器具が水平になるように介物を入れてしっかり固定してください。
- ②給水管を配管し、給水管内のゴミ、砂等を完全に洗い流した後、給水脚に接続します。
- ③給水脚を本固定します。



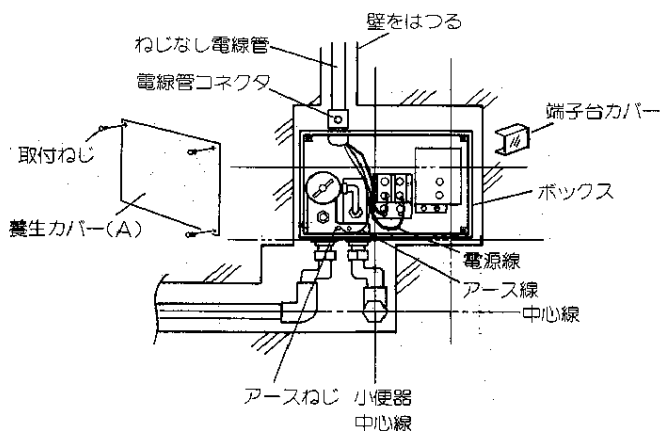
ご注意

- ボックス切欠き(4カ所)と目地割線のずれは±5mm以内としてください。
- もし、ボックス切欠きと目地割線がずれたときは、吐水脚をタイル目地割線に合わせて本固定してください。
- 埋戻し前に必ず埋込配管接続部の漏水がないか確認してください。

6 電源線・アース線の接続

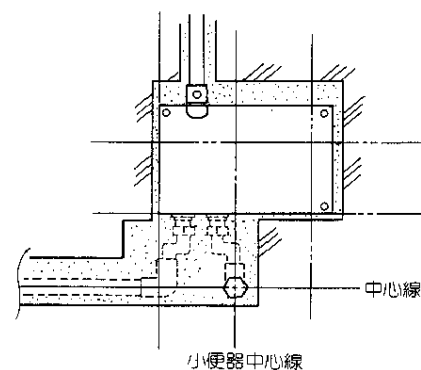
- ①電線管コネクタ部の壁をはつりねじなし電線管を電線管コネクタに接続します。
- ②養生カバー(A)を外し、電源線、アース線を電線管を通してボックス内に引き込み、電源線を端子台に接続します。
- ③端子台カバーをはめこみます。
- ④アース線をアースねじに接続します。
- ⑤配線後、養生カバー(A)をボックスに固定します。

※使用電線管：ねじなし電線管 E19(現場手配)



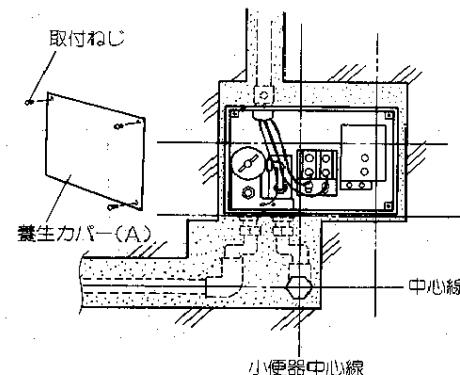
7 下地壁の埋戻し

ボックスの周囲をモルタルで埋戻します。



8 養生カバーの取外し

養生カバー(A)を取外します。

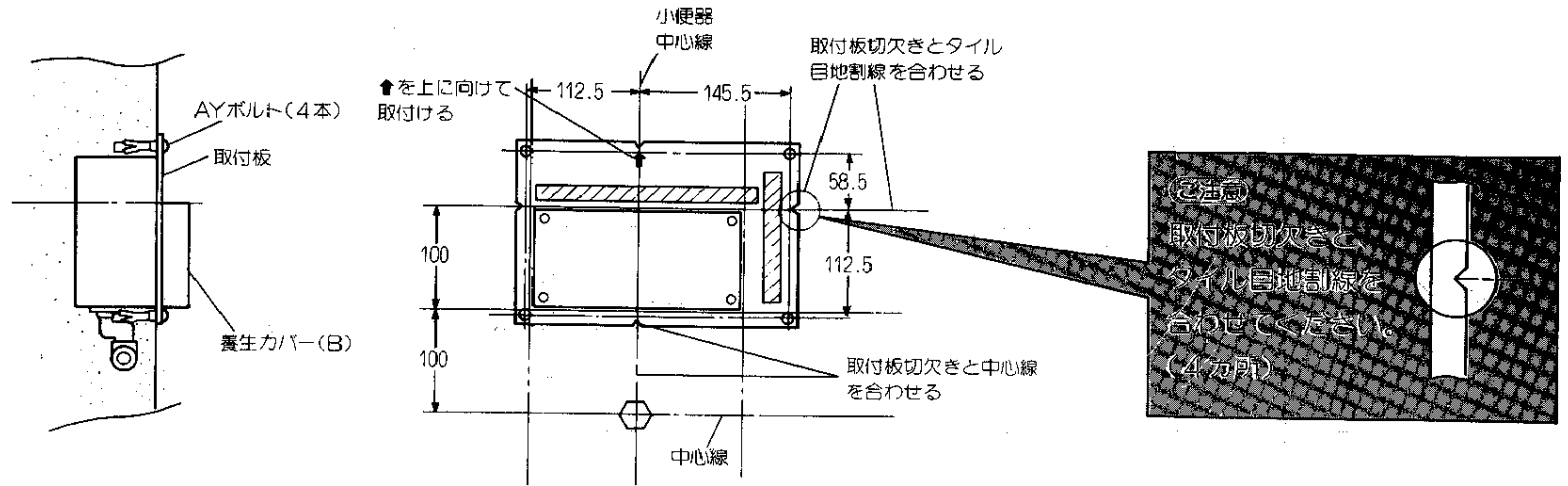


9 取付板の固定

養生カバー(B)付の取付板をAYボルト(4本)で下地壁に固定してボックスを覆います。(AYボルトの下穴はφ7.5ドリルをご使用ください。)

ご注意

取付板の取付けが狂うと、タイルが張れなくなったり、光電センサが取付けられなくなりますので注意してください。

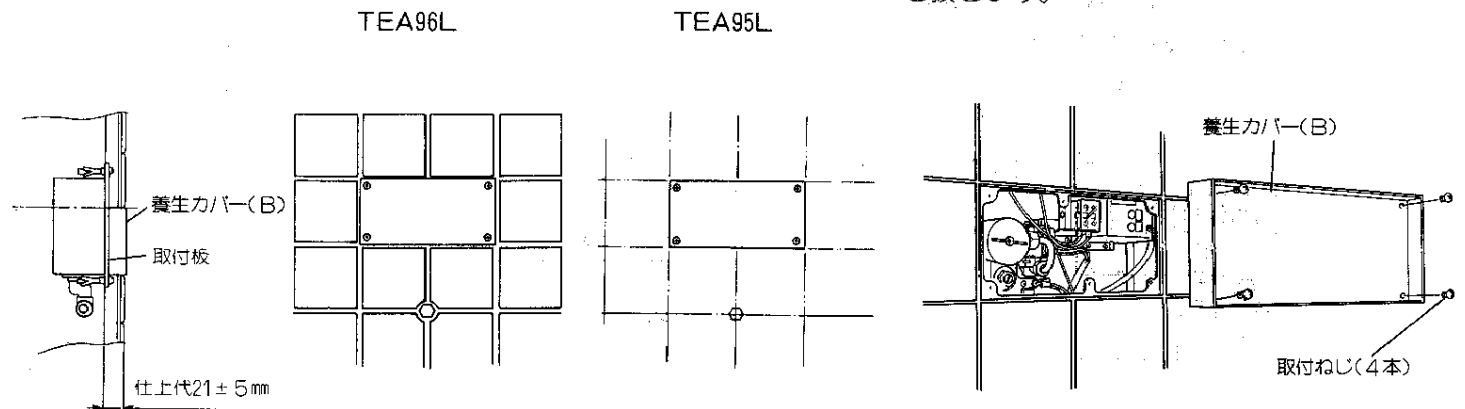


10 下塗りモルタル施工・タイル張り・目地詰め

- ①下地壁にモルタルを下塗りします。
 - ②養生カバー(B)を付けたまま、タイルを張り、養生カバー(B)の周囲を除いて目地詰めします。
- タイルの水洗いはこの状態で行ってください。

ご注意

酸洗いは器具を傷めますので行わないでください。

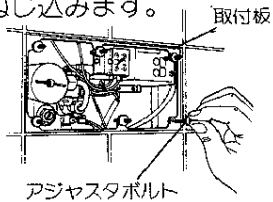


11 養生カバーの取外し

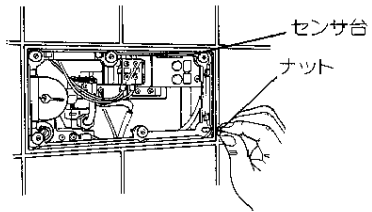
取付ねじを外して、養生カバー(B)を壁面から引き抜きます。

12 センサ台の取付け

①取付板にアジャスタボルト(6本)をねじ込みます。

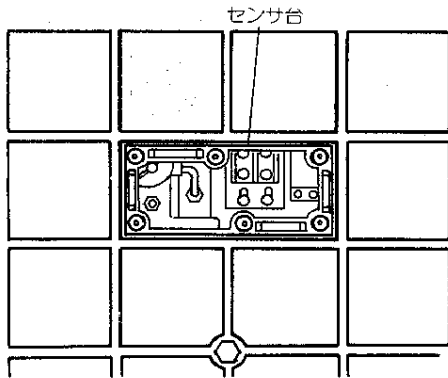


②センサ台をはめ、アジャスタボルトで調節した後、ナットで固定します。

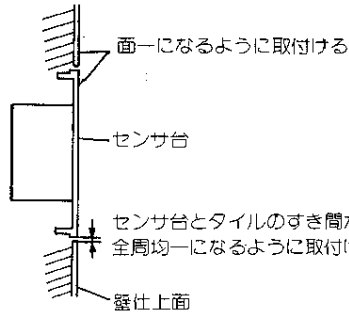


13 目地詰め (TEA96Lのみ)

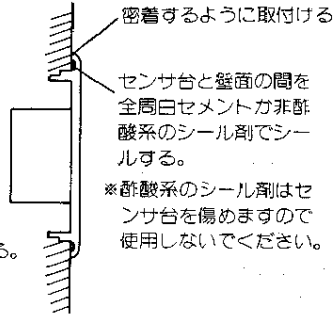
センサ台の周囲を白セメントか非酢酸系のシーラントで目地詰めします。酢酸系のシーラントは、センサ台を傷めますので使用しないでください。



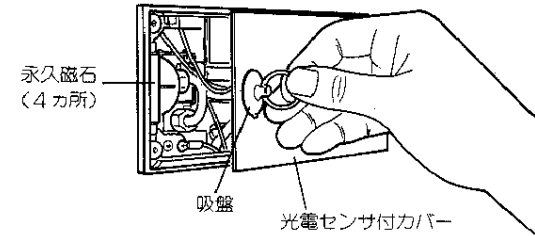
TEA96L



TEA95L



③光电センサ付カバーを永久磁石の部分に吸着させ四隅を押えてガタツキがないことを確認します。ガタツキがある場合は、図のように付属の吸盤を使って、光电センサ付カバーを外し、アジャスタボルトで調節してください。調節後は、光电センサ付カバーを外してください。

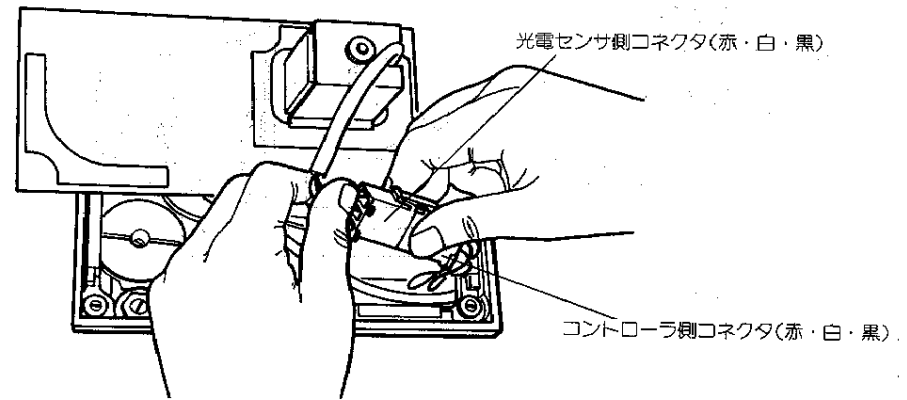


【注意】

●センサ台にソリが出ると、光电センサ付カバーがガタついたり器具を破損したりしますので注意してください。

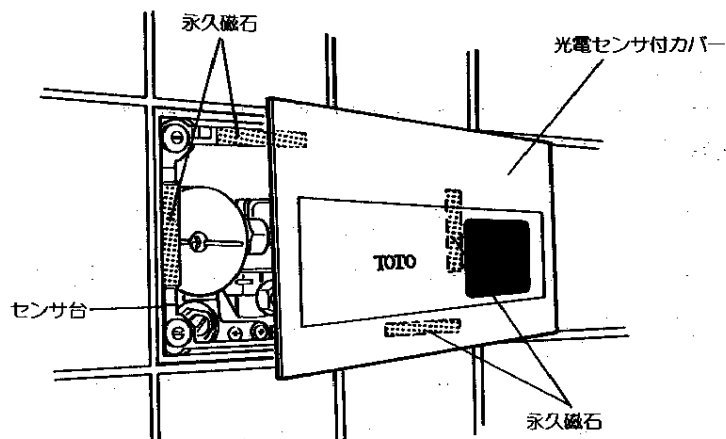
14 光电センサのコードと信号線との接続

光电センサのコードとコントローラ信号線をコネクタ接続します。



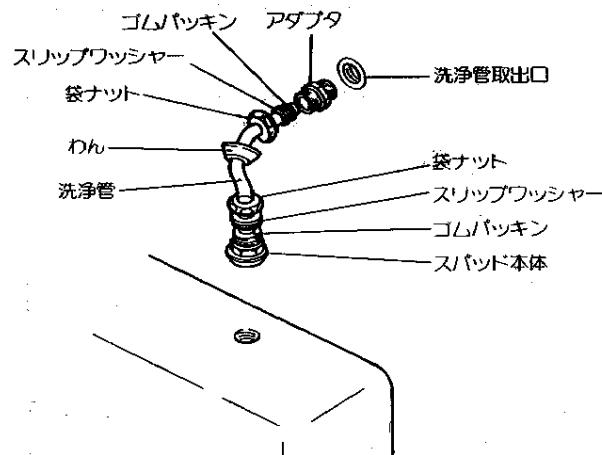
15 光電センサ付カバーの取付け

センサ台の永久磁石に、光電センサ付カバーをしっかりと吸着させます。



16 洗浄管の取付け

- ①洗浄管取出口のプラグを外しアダプタをねじ込みます。
- ②アダプタと小便器スパッド間を洗浄管で接続します。



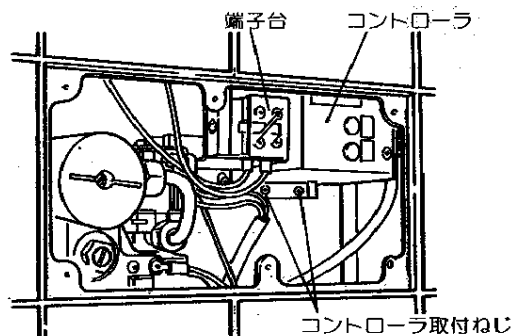
17 取付完了後の確認

配線、配管に間違いがないことを確認後、通水、通电し、通常の使用状態(作動のしくみ参照)で作動するかどうか確認します。
このとき、各部に漏水のないことを確認してください。

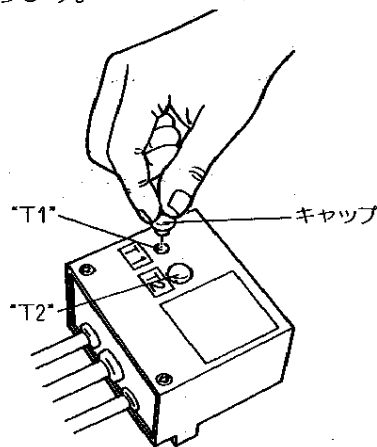
● タイマの設定 (タイマは、本洗浄タイム(T1)を5秒、前洗浄タイム(T2)を0秒に工場で設定して出荷しております。必要に応じて次の要領で設定してください。)

設定方法

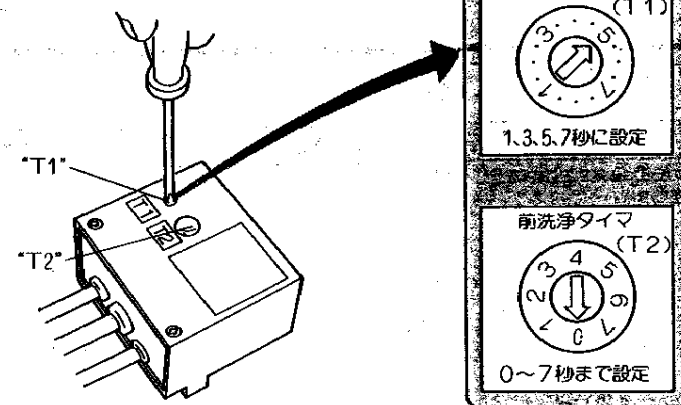
- ①コントローラ取付ねじ(2本)をはずしてコントローラをボックスから取出します。



- ②コントローラのT1・T2のボリュームのキャップを取ります。



- ③ドライバーで図のように希望の時間にタイマを設定します。

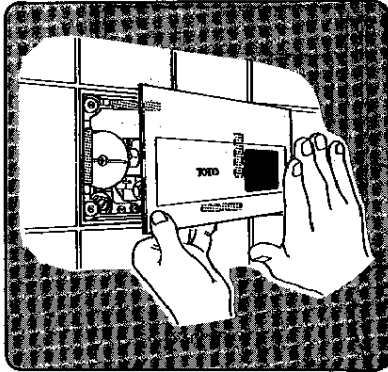


ご注意

通电時は危険ですので、端子台には絶対に手をふれないでください。

● 水量・水勢の調節

センサの前を図のように手で覆い約10秒間経過後手をはなしてフラッシュバルブを作動させ、最適な水量で約10秒間洗浄するよう次の調節をしてください。



● 水勢の調節

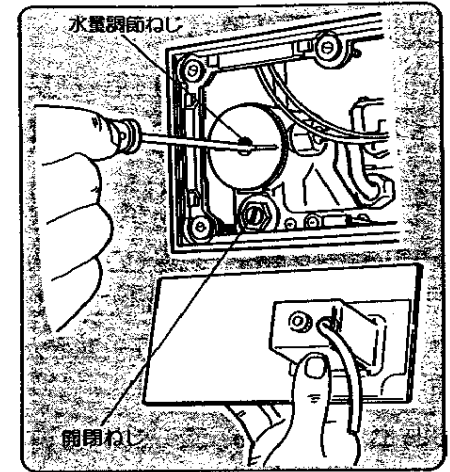
開閉ねじを水勢が強いときは右に、弱いときは左に回してください。

● 水量の調節

水量調節ねじを水量が多いときは右に、少ないときは左に回してください。

⓪注意

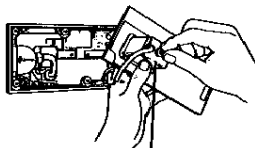
- 調節の際は、カバーを必ず片手で保持してください。
- 通電時は危険ですので、端子台には絶対に手をふれないでください。



● 感知距離の調節

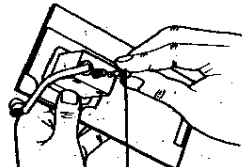
※感知距離は工場で調節後出荷しておりますので通常は調節不要ですが、万一通常の使用状態で感知しなかったり、対向壁等を感知してしまうときは次の要領で調節してください。

● センサ取付板を外す。



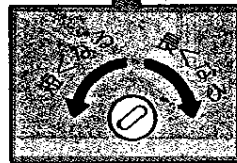
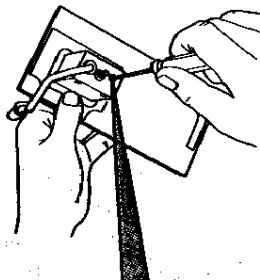
センサ取付板

● ボリュームのキャップをとる。



キャップ

● ①ドライバーで感知距離を調節する。

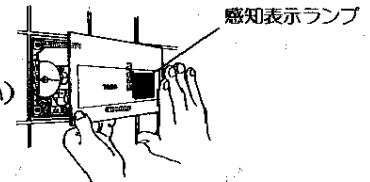


② 感知しない場合(感知表示ランプが点灯しない)

- 感知距離調節ボリュームを右に回す。

③ 感知しっぱなしの場合(感知表示ランプが消灯しない)

- 感知距離調節ボリュームを左に回す。



⓪注意

- 感知距離調節ボリュームは少しずつ回して調節してください。
- ボリュームには無理な力を加えないでください。
- 感知距離を必要以上に長くすると誤動作の原因になりますので必要最小限にとどめてください。
- 通電時は危険ですので端子台には絶対に手をふれないでください。
- 調節の際はカバーを必ず片手で保持してください。